

ISNA日本スヌーズレン-MSE研究・資格認定協会 誕生の経緯

【経緯】

私たちは、2002年にドイツのフンボルト大学において、創始者のVERHEUL,Aとフンボルト大学リハビリテーション学部教授のMERTENS,K.博士が共同で設立したISNA(INTERNATIONAL SNOEZELEN ASSOCIATION)に設立のルーツを持ちます。今日は、ISNAから2012年にISNA-MSE(本部:デンマーク)に継承発展しています。私たちは、これまで姉崎が設立した、前身のISNA日本スヌーズレン総合研究所の諸活動を嶺前会長から継承し、さらに発展させたのが本団体で、名称を一部変更して、将来の法人化を視野に置いて「ISNA日本スヌーズレン-MSE研究・資格認定協会」を設立しました。

姉崎は、2003年以降、度々創始者のいるオランダのハルテンベルグセンター施設やスヌーズレン研究の第一人者MERTENS博士のいるドイツのフンボルト大学に留学し客員研究員としてスヌーズレンの研究を深め、スヌーズレン実践や研究の世界の著名な人物と交流し、さらにヨーロッパの多数のスヌーズレン施設の視察を行いました。そしてこれまで日本特殊教育学会等でスヌーズレンの研究発表や自主シンポジウムを多数行い、全国でスヌーズレン講演会等を多数開催してきました。2000年代の日本には、これまで日本スヌーズレン協会はありましたが、スヌーズレンを研究する団体がなかったこと、さらにスヌーズレン創始者たちの書籍やMERTENS,K.博士の書籍の翻訳書も出版されておらず、スヌーズレンを正しく理解して広められていないことが問題となっていました。そこで、姉崎は、2009年にMERTENS,K.博士の書籍、姉崎弘監訳『スヌーズレンの基礎理論と実際—心を癒す多重感覚環境の世界—』(大学教育出版)を翻訳出版し、次いで2015年に創始者たちHULSEGGE,J.& VERHEUL,A.の書籍、姉崎弘監訳『重度知的障がい者のここちよい時間と空間を創るスヌーズレンの世界』(福村出版)の書籍をそれぞれ翻訳出版しました。これらの翻訳書の書籍が日本でスヌーズレンを学ぶ上での基本や出発点になっています。

そこで2009年に全日本スヌーズレン研究会を、2015年にISNA日本スヌーズレン総合研究所を設立しました。そして2004年にMERTENS,K.博士がドイツでの国際スヌーズレン会議の席上で、世界に向けて初めてスヌーズレンの専門資格の必要性を訴えられましたが、当時この資格の必要性を理解して賛同する人はいませんでした。日本では姉崎が、MERTENS,K.博士を5回来日を実現させ、講演会やシンポジウムを開催し、さらに大変な苦勞を経て2013年と2014年に12日間のスヌーズレンの資格認定セミナーの開催を実現させ、MERTENS,K.博士から受講者にスヌーズレンの国際的資格が授与されました。また、姉崎は「国際スヌーズレン専門支援士SV(2025年)」も取得しています。

【当協会の使命と役割】

私たちの使命と役割は、まずスヌーズレンの研究を継続発展させ、主に①スヌーズレンの実践報告や実践研究、学術研究を本協会の機関誌「スヌーズレン教育・福祉研究」誌を通じて、国内外に発表し、スヌーズレンの実践と研究をさらに推進させ、社会の理解啓発を図っていくこと、さらにスヌーズレンに理解のある専門家を養成していくために、②スヌーズレン資格認定セミナーを開催し「スヌーズレン支援士(2日間)」や「スヌーズレン専門支援士(4日間)」を授与すること、③そのための準備としてまずスヌーズレンの基礎知識を習得するためのスヌーズレン研修会を開催すること、の2点にあります。他にも、学会でのスヌーズレンシンポジウムの開催や各個人による学会等での研究発表を継続して行っています。

(文責: ISNA日本スヌーズレン-MSE研究・資格認定協会 理事長 姉崎弘)

なお、当協会はISNA-mse及び日本スヌーズレン協会とは一切関係のない独立した団体です。



スヌーズレンは「クンクン匂いを嗅ぐ」と「居眠りする」のオランダ語から派生しています。その概念は、オランダの重度知的障がい者入所施設で1970年代に開発されました。意図的に設定された部屋で、本人の好む光や音、香り等の多重感覚刺激を用いて感覚的に魅了的な世界へと導きます。主にリラックス効果と活性的効果の両方が知られています。人々に幸福感を導き、レジャーだけではなく、セラピーや教育・療育活動等として、障害者や心理的に不安定な健常者にも幅広く活用されています。

